

リンゴ園でオオバコは ミチノクカブリダニの定着に好適な下草である

リンゴの害虫ハダニの主要な天敵であるミチノクカブリダニの農作物防除の可能性を調べています。ミチノクカブリダニは、リンゴ樹上と下草に生息しています。このため、ミチノクカブリダニの定着に好適な下草の保護により、下草に生息するハダニの増加が抑制され、それによりリンゴ樹上のハダニの発生を抑えることが期待できます。リンゴ園のオオバコにミチノクカブリダニが生息しているため、オオバコにおける生息状況と花粉の繁殖餌としての有効性を調べました。

☆技術の概要

1. ミチノクカブリダニ雌成虫はオオバコの葉で5月下旬～7月下旬に観察され（図1）、葉裏の葉脈沿いに多いことが観察されました。
2. オオバコの花粉を与えてミチノクカブリダニ雌成虫を21℃高温条件で飼育すると、14日後の個体数はチャの花粉（広食性カブリダニの一般的な飼育餌）を与えた場合よりも有意に増加しました（表1）。

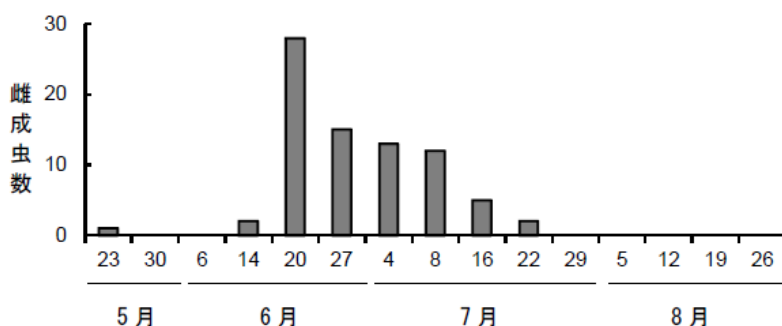


図1 リンゴ園のオオバコにおけるミチノクカブリダニの発生活動(2013年)

5～8月まで1週間毎にオオバコ30株の葉を観察、雌成虫を捕獲しました。縦軸の値は30株の合計捕獲数を示しています。

表1 オオバコとチャの花粉を与えて飼育したミチノクカブリダニの増加個体数

花粉	飼育容器当たりの平均個体数 ± SE (n = 7)		
	雌成虫	雄成虫・若虫・幼虫	合計
オオバコ	44.0 ± 7.3	102.0 ± 16.2 **	146.0 ± 22.6 **
チャ	22.0 ± 4.8	26.2 ± 5.8	48.8 ± 10.0

飼育は、組織培養プレート(24 ウェル)の各穴に糸糸と花粉を入れ、各プレート(合計7プレート)に産卵前の雌成虫を10頭ずつ放し、高温器(21℃、湿度約70%)に14日間置きました。花粉は3日毎に追加しました。プレートの縁は湿らせたペーパータオルで覆いました。アスタリスク(**)は、マン・ホイットニーのU検定で有意差がありました(p < 0.01)。

☆活用面での留意点

1. オオバコは草丈が低く、耐踏性も高いため、リンゴ園におけるミチノクカブリダニ定着の下草として適しています。
2. 詳細については、秋田県果樹試験場 生産技術部（電話：0182-25-4224）にお問い合わせください。

(果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人)